

## 救世主キリストの到来：神は私たちと共におられます

イエス・キリストがこの世に来られたことは、人類史上最も意味のある出来事でした。そして、キリストの生涯は、人類史上最も意味のある生涯でした。救い主であるキリストの到来を通して、神は地上に来られ、人間の肉体を持って私たちと共に住まわれました。彼は待ちに待った救世主、メシアでした。

## 救世主：神は私たちと共にいます

古来より、神は彼イエス・キリストの到来を約束されてきました。旧約聖書の他のどの預言者よりも、イザヤ（紀元前 8 世紀）はメシアであるキリストの到来について預言しました。

しるしは主が決めます。見ていなさい。処女が男の子を産みます。彼女は生まれた子にインマヌエル（「神が私たちとともにいる」の意）という名前をつけます。（イザヤ 7:14）

インマヌエルとは、「神は私たちと共におられる」という意味です。当時のユダヤ人は、メシアが自分たちの王であり救い主であると考えていましたが、神自身ではないと考えていました。後の第9章で、預言者は次のように宣言しています。

しかしながら、暗闇と絶望の時代は、いつまでも続くわけではありません。もうすぐ、ゼブルンの地とナフタリの地は神からの辱しめとさばきを受けますが、将来は、海沿いの道、外国人の住むガリラヤ、ヨルダン川の東の地は、神の栄光でまぶしいほどになります。<sup>2</sup> 暗がりを歩いていた人たちは大きな光を見ます。それは、死の陰の地に住んでいた者を照らす光です。

（イザヤ 9:1-2）

王である救世主は、闇の世界に光をもたらすことになっていました。彼は救いを求める絶望的な国に希望をもたらすことになっていました。しかし、メシアはどのようにして実際に神を人間社会にもたらすことができたのでしょうか？ これは単なる寓話だったのでしょうか？

救世主 人であり神である

第9章に続き、預言者はさらに直接的です：

一人の男の子が私たちのために生まれます。その肩にすべての主権が与えられ、その子は、「すばらしい助言者」「全能の神」「永遠の父」「平和の君」と呼ばれます。（イザヤ 9:6）

救世主は子供として生まれることになっていました。しかし、彼はあらゆる意味で人間であると同時に、神でもあるべきでした。これは人間の知性では不可能に思えます。それは確かに、異邦人だけでなく多くのユダヤ人にとってつまずきの石でした。しかし、それはユダヤ人と全人類に対する神の約束でした。

救い主であるキリストは、紀元前 4 年頃にベツレヘムの小さな町で生まれました。彼の誕生を目撃したのはごく少数の人々だけでした。イエスの生涯についての記述を書くために、福音書筆者は詳細を知っているこれらの人々にインタビューしました。マタイ、ルカ、ヨハネはそれぞれ、平均的な人が理解できるように、簡単で基本的な用語を使用して記述しました。そして、それぞれが自分の記述に固有の言葉遣いや用語を使用して、物語に重要な情報を追加しました。各著者が使用する言葉に細心の注意を払いながら、これらの記述を確認してみましょう。

## イエスの誕生に関するマタイの記述

マタイの福音書は、救い主であるキリストの到来を人間の視点から語っています。この情報の多くは、もともとマリアの夫であるヨセフから来たものであると考えられています。彼らが婚約していたとき、マリアは「聖霊によって身ごもっていることが分かり」ました（マタイ 1:18）。ヨセフが

ひっそりとマリアと離婚しようとしていたとき、主の天使が夢の中で彼に話しかけ、こう言いました。

ヨセフがこのことで悩んでいた時、天使が夢に現れて言いました。「ダビデの子孫ヨセフよ。ためらわないで、マリヤと結婚しなさい。マリヤは聖霊によってみごもったのです。彼女は男の子を産みます。その子をイエス（「主は救い」の意）と名づけなさい。この方こそ、ご自分を信じる人々を罪から救ってくださるからです。（マタイ 1:20-21）

天使は、マリアのうちに幼子を生み出したのは、神ご自身、すなわち聖霊の命であることを確認しました。このことはヨセフを慰め、結婚の計画を最後までやり遂げる助けとなりました。その後、マタイは彼自身の解説を追加します。

このことはみな、神が預言者（神に託されたことばを語る人）を通して語られた、次のことばが実現するためです。

見よ。処女がみごもって、男の子を産む。その子はインマヌエル（神が私たちと共におられる）と呼ばれる。』

(マタイ 1:22-23)

マタイは、救い主であるキリストの到来に関する最も重要な事実を確認しています。この子は「私たちと共にいる神」であり、イザヤの預言を成就し、神は私たちと共に住むために地上に来られました。

イエスの誕生に関するルカの記述

ルカはまた、人間の視点から物語をより詳細に記録しています。これらの詳細は、マリア自身から得られたと考えられています。ルカは最初の章で、神がどのようにして天使ガブリエルをマリアに遣わしたかを記録しています。

すると、天使が言いました。「こわがらなくてもいいのです、マリヤ。神様があなたにすばらしいことをしてくださるのです。あなたはみごもって、男の子を産みます。その子を『イエス』と名づけなさい。彼は非常に偉大な人になり、神の子と呼ばれます。神である主は、その子に先祖ダ

ビデの王座をお与えになります。彼は永遠にイスラエルを治め、その国はいつまでも続くのです。」（ルカ 1:30-33）

天使ガブリエルは、救い主が生まれること、そして彼女が彼の母親になることをマリアに告げました。彼女の息子は待望のメシアであり、イスラエルを支配することになっていた王です。実際、彼の王国は非常に大きく、イスラエルだけでなく全人類、つまり神の永遠の王国を支配します。しかし、この告知は明らかにマリアにとって問題であり、彼女はためらわずに説明を求めました。

マリヤは尋ねました。「どうして私に子どもができればしょう。まだ結婚もしておりませんのに。」 聖霊があなたに下り、神の力があなたをおおうのです。ですから、生まれてくる子どもは聖なる者、神の子と呼ばれます。（ルカ 1:34-35）

明らかになったキリストの正体

マリアの質問に対する天使の答えは次のとおりでした。「聖霊があなたに降り、、、だから生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」これは、イエスが人間の肉体を持った神である理由の最も基本的な説明です。聖霊（神）は、彼女の中の子供の源でした。神の霊がマリアに臨むと、赤ちゃんが宿され、その子は人間の肉体を持った神であることが明らかになりました。

したがって、イエスは完全に神であり、完全に人間でもありました。それは本質的な矛盾のようであり、人間の理性が受け入れるのは非常に難しいことです。しかし、天使が後にマリアに語ったように、「…神にとって不可能なことは何もない」。(ルカ 1:37)

## 福音の単純さ

ルカは、これらの用語を使用して、イエスが神とマリアの両方から生まれたという単純な真実を伝えるために記述しました。そこには複雑な神学はありません。それは、福音書の筆者が理解できる基本的なものです。救い主イエス・キリストは、父なる神と母マリアから生まれました。マリアは

自分が妊娠していることに気づいたとき、これが何を意味するのか疑いの余地はありませんでした。

したがって、ルカの福音書にある神の子という用語は、イエスと父なる神との真の関係を表すものであり、単なる神学上の称号ではありません。天使の宣言に基づいて、「神の子」は、キリストの神性だけを指すのではなく、また単にキリストの人間性を指すのではなく、神と人間性が融合して一人の人になることを指します。

### キリストの来臨に関するヨハネの記述

使徒ヨハネは非常に哲学的でした。彼の福音書の第 1 章で、彼は非常に異世界的な視点からキリストの到来について語っています。彼は初めからの話を記述しているので、神の視点から物語を語ったとほぼ言えます。

まだこの世界に何も無い時から、キリストは神と共におられました。キリストは、いつの時代にも生きておられます。キリストは神だからです。

(ヨハネ 1:1-2)

ここでいう初めは、創造の初めではなく、それ以前のことを指します。キリストは最初に造られたのではありません。彼は神であり、言い換えれば、すべての永遠の過去からすべての創造の源でした。神だけが「初めに神とともに」おられることができたので、キリストは常にあらゆる意味で神でした。

人の言葉は、その人の内なる存在の表現です。同様に、神の言葉は彼の心の奥底にある考えを表現しています。キリストは、神のことばでした。彼は神の創造的な心の完全かつ最も深い表現でした。彼は神の正確なイメージであり、神と共にいて、創造の前から神でした。そして、神が彼のことば（キリストであった）を語ったとき、宇宙が存在しました。

キリストがこの世に来られる

以下は、救い主であるキリストがこの世に来られることについてのヨハネの簡単な説明です。

キリストは人間となり、この地上で私たちと共に生活なさいました。彼は恵みと真実のお方でした。私たちは、この方の栄光を目のあたりにしました。それは天の父である神の、ひとり子としての栄光でした。（ヨハネ 1:14）

ヨハネの記述は、神がことばであるキリストを通して、物理的領域と精神的領域の両方で宇宙全体を創造したと述べています。創造の後、彼は適切な時期に「受肉」（顕現）し、人間の体をまとして、この地上で私たちと一緒に住まわれました。顕現する前は、彼は永遠のことばでした。今、彼は、聖霊と選ばれた母マリアとの結合から生まれた、肉となったことばになりました。

ヨハネは次に地上の視点を付け加えます。「わたしたちは彼の栄光を見ました」。使徒たちは、メシアの到来を経験し、メシアとともにいるときにその永遠の栄光を目の当たりにする特権を持っていました。教会への最初の手紙で、ヨハネは次のように書いています。

私は、この世界が造られる前から存在しておられたキリストをこの目で見、そのことばをこの耳で聞き、その体にこの手でふれました。キリスト

は、神のいのちのことばです。このいのちである方は私たちに現れ、私たちは確かにこの方を見ました。私が伝えたいのは、永遠のいのちである、このキリストのことです。キリストは初め、父なる神と共におられましたが、やがて私たちの前に姿を現されました。（ヨハネ第一 1:1-2）

みことばが受肉したのは、私たちが真実を聞くだけでなく、見るができるようにするためです。

## 唯一無二

ヨハネは福音書の中で「唯一無二」という言葉を使ってイエスを表現していますが、それはどういう意味でしょうか？ 古い聖書の翻訳では、「唯一無二」ではなく、神の「独り子」という言葉が使われています。これは、イエスが神から生まれた唯一の者であることを意味すると理解する人もいるかもしれませんが、しかし、これは真実ではありません。キリストを信じる者も、神の息子たち、神の子たちとも呼ばれます。

ヨハネの福音書で「唯一無二」を意味するギリシャ語は monogenes です。他の場所では、一人息子（ルカ 7:12 とルカ 9:38）または一人娘（ルカ 8:42）を表すために使用されています。神学者たちは最近、新約聖書におけるこの言葉の意味についての議論を新たにしています。多くは、それが生まれた息子よりもユニークな息子の意味合いを持っていると信じています。これは、新国際訳や新英訳などのいくつかの新しい翻訳における「唯一無二」という言葉の選択に反映されています。この見方によれば、イエスは、神と人間の両方から生まれた唯一の息子でした。

## アブラハムの唯一無二

神はアブラハムに、多くの国の父となる息子を約束されました（創世記 15:1-6）。アブラハムとサライは、サライのはしためハガルを通じて相続人を作ろうとしましたが、この努力は失敗しました（創世記 16 章）。イシュマエルは人間の努力によって生まれ、約束された息子ではありませんでした。数年後、アブラハムとサラが年を取りすぎて子供ができなくなっ

た後、約束の成就是絶望的に思えました。しかし、神はついに約束を守り、彼らにイサクを与えました。

創世記 22 章 1 節から 19 節にある話では、神はアブラハムに、約束された息子であったにもかかわらず、待望の息子イサクを犠牲にするよう命じました。この物語に関する彼の解説の中で、ヘブライ人の著者は、イサクに対して「唯一無二」（単遺伝子）という用語を使用しました。

神がアブラハムの信仰を試された時にも、アブラハムは最後まで神とその約束とを信じました。彼はひとり息子のイサクを神にささげ、祭壇の上で殺そうとまでしました。（ヘブライ人への手紙 11:17）

イサクは正確にはアブラハムの一人息子ではありませんでした。しかし、彼は奇跡的な誕生によって生まれた「唯一無二」の息子であり、神の約束の息子でした。

この物語は、父なる神が私たちの罪のための犠牲として彼の唯一の息子イエスを捧げるという美しい絵と預言を提示しています。イエスは父の「唯一無二の」息子であり、他とは別の息子であり、父から直接生まれまし

た。彼はまた、救い主としてマリア、イスラエル、そして全世界に与えられた神の約束の御子でもありました。

## 神の唯一の顕現

後に使徒ヨハネは、次のように言明しています。

いまだかつて、実際に神を見た人はいません。しかし、神のひとり子だけは別です。御子は父なる神といつもいっしょですから、神について知っていることを教えてくださいました。（ヨハネ 1:18）

イエスはこの箇所ですべて「唯一なる神」と呼ばれています。再び単一遺伝子を使用して、ヨハネは彼が人間の形をした神の完成かつ完全な具現、唯一の「肉の神」であることを意味します。イエスは神の唯一の真の顕現であり、他にはありませんでした。神を私たちに知らせめたのは彼でした。私は、歴史上、神の化身が数多くあったと主張する仏教徒と話をしました。しかし、これらの人々は明らかに人間の父親と人間の母親の両方を持

っていました。ですから、彼らが神の化身だったということはありません。イエスは、父なる神から直接生まれた唯一の人間でした。

新約聖書の使徒と筆者も、教会へのすべての手紙で顕現の真実を確認しました。

キリストのうちこそ、神の性質のすべてが肉体をとって宿っているのです。（コロサイ人への手紙 2:9）

神は昔、幻や夢や、時には直接の啓示などいろいろな方法で、預言者を通してご自分の計画を少しずつ明らかになさいました。<sup>2</sup> しかし今の時代には、ご自分の御子（イエス・キリスト）を通して語っておられます。神は、彼によって世界とその中のすべてのものをお造りになり、その御子にすべてを受け継がせたのです。御子は神の栄光を受けて、まばゆいばかりに輝いています。また、その人格と行動すべてにおいて神であることを示し、力あることばによって万物を治めておられます。そればかりか、私たちのすべての罪の記録を消し去ってきよめるために死んでくださいました。そして今は、最高の栄誉を受けて、天におられる偉大な神のそばにいらっしゃるのです。（ヘブライ人への手紙 1:1-3）

## 御父の表現に満ちたイエス

神は多くの方法で人類に話しかけてきました。しかし今、神は救い主であるキリストの到来を通して私たちに語られました。神は私たちと共にいます。イエス・キリストは、人々が見たり聞いたりできる形、つまり生きている人間として、神を完全かつ完成され描写しました。

救い主キリストの到来により、目に見えない神が地上に来て、私たちに見えるようになりました。イエスの人柄、言葉、行動、感覚、感情はすべて、父が誰であるかを世界に明らかにしました。イエスの言葉はまさに神の言葉であり、イエスの行動はまさに神の行動でした。彼は私たちにとって完全な神のことばです。他のことばを探す必要はありません。

ヨハネの福音書第3章は、神が「唯一の息子」を与え、アブラハムとイサクの物語を通して教えられた救い主をもたらすという予言を成就したと述べています。

実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、この世界を愛してくださいました。それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。（ヨハネ 3:16）

ヨハネは今、肉となったこのことば、唯一無二のことばは、神から私たちに賜物として与えられたと語っています。もちろん、神は死ぬことができません。しかし、神の御子であり、人となった神であるイエスは、私たちの犠牲として真の死を遂げられました。そうすることで、キリストは私たちの救い主になりました。神に信仰を置く者は、神の永遠の命を賜物として与えられます。これは、御父のいのちが御子の中にあり、御子を受け入れる者には神のいのちである聖霊が宿っているからです。

私たちの対応

読者として、あなたは霊的な真実を探しているかもしれません。あなたはこれまで、キリストを偉大な宗教的教師または指導者としてしか見ていないかもしれません。しかし今、あなたは彼の神性について読みました。私

の祈りは、あなたが彼を偉大な指導者としてだけでなく、救世主、キリスト（メシア）、そして顕現した神として理解するようになることです。あなたがイエスを信じるなら、彼はあなたの救い主になるでしょう。失望することは決してありません。

Bible quotes from the Japanese Living Bible, Bible Gateway website